

進路状況報告

平成二十五年度入試報告

東大・京大・東工・一橋31名

東大24名で昨年に続き健闘

筑波大42名

進路指導部長 木村 幸彦

平成25年度入試は、前年度よりセンター試験の平均点大幅にダウンと、ここ数年進んでいる後期日程の廃止のため、全国的には弱きな出願傾向がみられた。

センター試験志願者数は、約57万3千人で、前年度より約18、000人増であったが、国公立の志願倍率は4・84倍(国立4・44、公立6・44倍)で、前年度の4・91倍よりやや低下した。これは、先に述べたとおり、センター試験の平均点ダウンと難関国立大学の後期日程の廃止により難関大学前期志願者の後期の受け皿が減少したこと、ここ数年の経済の低迷や近年の受験生(保護者)気質などから「無理せず、より確実に、あるいは地元」という安全志向がさらに強まったことによる。学部系統別では、相対的に「理系人気」の傾向が続いているが、文系学部も人気低下に歯止めがかかってきているようである。

大学入試センターの発表によると、国語で17・0点、数学I・Aで18・8点と大きく平均点がダウンした。センター試験で思うように得点できなかった受験生は、この2科目で失敗しているケースが多い。本校生の平均点は、文系が661・3点(昨

年比-26・0点)、理系が662・2点(昨年比-31・9点)と文系理系とも全国平均並にダウンしたが、全国的な傾向に反し、初志の希望を貫き、第一志望に挑戦した生徒が多かった。このため、現役合格率は、やや低かったが、次年度に期待が持てる。今春の入試結果について、主なもの挙げると以下のようなものである。

- 東京大学24名(新卒13名)
- 京都大学2名(新卒1名)
- 東工大学4名(新卒3名)
- 一橋大学1名(新卒0名)
- 東北大学19名(新卒9名)
- 筑波大学42名(新卒25名)
- 国公立大医学科17名(新卒5名)

東大は昨年度22名、今年度24名と2名増加し、20名台をキープした。内訳は、現役で、文一に1名、文二に3名、文三に1名と5名が合格した。理系は理科一に5名、理科二に3名であった。残念ながら、後期日程では合格者はでなかった。現役合格者数の13は全国の公立高校と比較した場合、見劣りしない数字である。全体の合格者数を伸ばすには、浪人をして受験する生徒の数をどう確保するかが鍵である。昨年度の卒業生にも、後一步で涙を飲み、再挑戦する者も数多くいる。次年度入試の結果が待たれる。地元筑波大は、42名が合格。昨年より9名増加したが、東北大は19名で、やや減少した。総じれば、難関国公立を目指す姿勢を変えずに健闘したといえる。

平成25年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

*新卒は内数です

大 学	合格者	新 卒
旭川医科大	1	1
北海道大	4	2
岩手大	1	
東北大	19	9
秋田大	2	1
山形大	4	
茨城大	13	5
筑波大	42	25
群馬大	1	
埼玉大	2	1
千葉大	10	4
お茶の水女子大	7	4
電気通信大	3	1
東京大	24	13
東京医科歯科	2	1
東京海洋大	2	2
東京外語大	4	2
東京学芸大	3	1
東京芸術大	1	
東京工業大	4	3
東京農工大	5	2
一橋大	1	
横浜国立大	4	2

大 学	合格者	新 卒
金沢大	1	
山梨大	2	
信州大	3	1
名古屋大	4	2
京都大	2	1
大阪大	2	1
奈良女子大	1	1
島根大	2	1
山口大	1	
長崎大	1	
大分大	1	
宮崎大	1	
琉球大	1	
国際教養大	1	
埼玉県立大	1	1
首都大東京	1	
都留文科大	1	
岐阜薬科大	1	
京都府立医科大	1	
国公立大計	187	87
(うち医学科)	17	5
大月短期大	1	1

大 学	合格者	新 卒
青山学院大	15	10
学習院大	14	10
慶応大	44	21
国際基督大	5	3
上智大	17	6
中央大	22	4
津田塾大	1	
東京女子大	7	6
日本女子大	19	14
東京理科大	55	24
明治大	70	28
立教大	28	13
早稲田大	73	27
法政大	33	16
北里大	6	3
芝浦工大	15	9
日本大	10	6
同志社大	4	
立命館大	1	
その他	92	41
私立大計	531	241
合格者総数	719	329